



診断ふくい

第31号

【発行】一般社団法人 福井県中小企業診断士協会 会長 津田 均

〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂 3-7-1-16 福井県産業情報センタービル内 TEL 0776-67-7447 FAX 0776-67-7429
ホームページ <http://www.sindan-fukui.jp/> Eメール info@sindan-fukui.jp

【発行日 平成 30 年 6 月】

活動の幅を広げる、中小企業診断士にご期待ください

会長 津田 均

本格的な夏の前ですが暑い日が続いています。私も3期目5年目を迎え新しい体制で、本格的に事業に取り組み始めています。日頃のご協力に感謝し、改めて今後の取り組みなどについて、ご紹介させていただきます。

<診断士業務はAIに取って代われないもの>

さて、AI、IoT等の言葉がごく普通に使われるようになってきました。それを裏付けるように、生産活動において、サービス産業等において、生活、暮らしの中に入り込んできています。今後はさらに身近なものになってくるでしょう。このような状況の中で、私たち中小企業診断士は、AIに取って代われない資格、業務であると言われていています。経営は生き物であり、社長、リーダーの考え方、所有している資源の内容や、狙うターゲットによって、千差万別だからです。皆さま方の各々の事業に対し、絶えず最適な支援に繋がっていきけるように研鑽を重ねていきます。

<福井県の診断士活動は拡大している>

私が4年前に会長に就いた時点で会員は55名でしたが、現在は88名とかなりのスピードで増加しています。受注する事業の範囲も拡大しており、マーケティング、開発・生産、創業等の産業労働面はもとより、福祉介護、農林水産、建築・土木、教育、環境・衛生など多岐にわたっています。行政機関、支援機関と力を合わせて、取り組みの幅を広げて、深いところまで追求しています。また、受注量も拡大しており、今以上の能力・品質の向上と会員数の増加を目指します。

地方創生、観光をメインテーマとして、個別に展開される地域活動に合わせて、企業ニーズ、

生活ニーズに対して、県内の行政機関、支援機関、金融機関等と何ができるか、何をしなくてはならないかなどについて検討を重ねています。

<今年の重点活動は、シンポジウムとセミナー>

我々中小企業診断士の取り組みですが、3年連続してシンポジウムを開催します。広く県内全域から様々な方に参加していただきたいと考えています。日程は11月9日(金)福井商工会議所です。多くの取り組み事例、成功(失敗)事例、問題点と解決策の検討などについて、皆さまとと考えていくキッカケづくりをしていきたいと考えています。セミナーも地域に根差した問題解決に向けて計画しています。

<ビジョンが欠かせない>

昨年度は、当協会の経営理念、ビジョンを見直し、人材について、組織についてどうあるべきかを想定し、認知度目標を掲げ、そのために事業・活動をどう進めるかを明確にしました。皆さまにいつも提案しているこれらの最重要課題に我々自身も真摯に向き合いました。絶えず評価をして、見直して、高めていくことが欠かせないと感じています。

皆さまも我々と一緒に地方創生に向けて、新たな取り組みを始めてみませんか。中小企業診断士はその事前準備として県及び各市町の計画を知り、支援機関の計画を把握することに努めています。“こんなことができますか”と一声かけていただけるよう前向きに活動していきます。



委員会活動報告

◆事業推進委員会

委員長 竹内 真一



事業推進委員会は、会社で言うと「営業部隊」です。本年度は、前年度から実施している「営業」と「新事業の開発」の2本柱を更に推進します。具体的には、行政・金融機関・支援機

関・企業等の定期的な訪問により、関連機関等の悩み・問題点を把握し、これを解決する企画を提案する「ソリューション営業」を展開します。また、本年度から、「事例検討会」を新たに開催し会員各位の更なるレベルアップを図ります。

各方面から、「専門の異なる複数の診断士に関わってもらうことで、相談することに安心感や期待感がある」、「同時にいろいろな角度からの意見が聞けてスピード感がある」という意見をいただいております。今後は、多彩な専門分野・得意分野を有する中小企業診断士が所属し、豊富な事例とノウハウを有する「福井県中小企業診断士協会」の総力を結集し、様々な問題を解決していきたいと思っております。

◆見習研修・養成塾

藤野 恵子



見習研修は昨年に引き続き受託を目指します。また、養成塾では、当協会と資格の学校 TAC が、福井にて中小企業診断士養成塾を開催し、受験生を応援します。独学では試験情報

が少なく不安であるという方、苦手科目に対する学

習方法を考えたいという方、県外の会場へは行けませんが、本試験を想定した練習がしたいという方にお奨めの内容となっています。

①支援機関等の経営相談員スキル向上と、②中小企業診断士資格合格を創出し当協会へ入会を促進するということを目指しています。また、活動を通じて③当協会会員のリーダーシップなどスキルアップも図っていきたくと考えています。

養成塾で共に資格取得を目指し、見習研修でスキルアップを目指す仲間となる皆様をお待ちしています。

◆創業支援委員会

委員長 谷川 俊太郎



創業支援委員会では毎年敦賀や武生で創業塾を開催しています。創業にあたっては経営戦略、営業、IT、会計、など考えなければいけないことがたくさんあります。ましてや、一人で

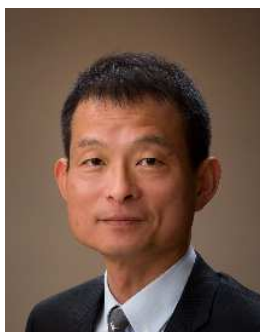
全てまかなえるものではありません。当協会には多くのその道の専門家がいます。その専門家が1人1人自分の得意分野を説明することで、創業を志している方により深く、より実践的な理解をしてもらえるものと思っています。今後は、敦賀や武生に限らず、創業塾を開催していきたいと思っております。

当協会の特徴は、経営戦略のプロ、営業のプロ、人事のプロ、会計のプロ、そのような「タレント揃い」であることです。各タレント1人1人がその専門分野のセミナーの担当をいたします。

さらに、県下商工会議所等の支援機関主催の創業セミナーの企画運営方法の相談や、各分野の講師の派遣を通じた創業者・創業予定者の支援を進めるとともに、個別相談や創業の具体的なアドバイスにも応じていく予定です。昨年から継続したお問い合わせや、企画の段階からのご相談にも対応いたしますのでご連絡ください。

◆事業企画委員会

委員長 川嶋 正己



事業企画委員会では中小企業診断士の活動やスキルをアピールしていく役割を担っています。具体的には、我々の活動成果や支援事例をご紹介するシンポジウムやメンバーの

スキルを紹介することで経営の参考にしていただくセミナーを開催します。東京オリンピックや北陸新幹線敦賀延伸などが眼前に迫る中での「観光の産業化」や「事業承継」は中長期的な課題ではなく短期的課題となってきました。それらをテーマとするシンポジウムと共に「女性活躍推進」「働き方改革」など喫緊の課題に向けたセミナーを企画していきます。

中小企業診断士の仕事は机上の学問をお伝えすることではありません。常に実践が伴うものです。経営に関する知識と実践経験でのノウハウにより、具体的なアクションを促進することが仕事です。実際に我々がやってきた仕事をご紹介する中で、我々の使い道を実感していただきたいと考えています。単なる企業支援にとどまらない「地方創生」の視点での活動に触れていただきたいと思えます。

◆資格更新委員会

委員長 北島 宏樹



例年他県からもご参加いただいています「理論政策更新研修」を本年度も開催いたします。福井県の理論研修は毎年好評をいただいております。本年度も多くの方々にご満足いた

だけるよう、中小企業支援に必要とされる知識取得、

また重点テーマに意欲的に取り組んでいる経営者を講師に招き実務に役立つ研修を行います。

【理論政策更新研修事業】

日時 平成30年9月8日(土) 8:50~13:00
会場 福井県産業情報センタービルマルチホール
本年度もご参加いただいた方々に理論研修のアンケートを実施する予定です。さらなる充実に活用させていただきますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。また、研修の運営には多くの人員が必要です。当委員会へのご参加お待ちしております。

◆総務委員会

委員長 川端 利一



当協会はこの数年の間に、委員会や事務局体制、規程の整備など組織づくりを進めてきました。また昨年度には、協会10年ビジョンが作成され、今後の方向性が示されています。

総務委員会では、こうした土台をベースに、診断士が組織として力を発揮できるよう一層の体制強化のために活動していきます。ビジョン実現の課題のひとつが中小企業診断士の認知度向上です。シンポジウム開催等で行政等にアプローチを続けてきましたが、その成果も含めて、まずは当協会に対するイメージや期待について状況把握ができる仕掛けをしていきたいと思えます。また、企業内診断士の資格の維持も重要なテーマです。昨年度の現状調査の結果をもとに、実務ポイント取得の方法について検討していきます。その他、よりよい組織運営のために活動していきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

◆例会・広報委員会

委員長 上條 辰徳



目標は、例会については会員全員が1回以上参加すること、広報については協会ホームページ（HP）の継続的な更新によるアクセス数増加です。その結果、例会を通じた会員のプ

レゼン力向上・相互交流による協会の活性化、広報活動を通じた協会の知名度向上・会員数の増加へと繋げていきます。

具体的なアクションプランは、嶺北地域に留まらない例会の企画運営、協会HPへの掲載原稿量・頻度の増加、メーリングリストを活用した情報提供量の増加等を予定しています。

定友副委員長と協力しながら、会員が「入って良かった」さらには、「新しく加入したい」と思えるような福井県中小企業診断士協会となるよう、活動を推進してまいります。

◆会員研修・視察委員会

委員長 吉田 裕晃



当委員会ではクライアント等から中小企業診断士に期待されるコンサルティングなどのスキルを再確認し、更なる向上を図る研修会や先進事例先への視察会を実施しています。

本年度は人手不足が問題になっていることから

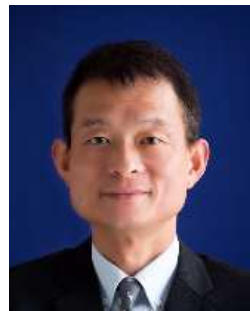
「生産性向上」や「人事労務管理」をテーマにスキルアップ研修会を予定しています。また地域づくりや観光活性化に向けた事例を学ぶ国内視察研修は北関東を、さらに県内企業の海外展開の事例と課題を現地で学ぶ海外視察はインドネシアを検討して

います。奮ってのご参加をお待ちしています。

当協会では時代のニーズに応えられるよう常に自己研鑽の場を設けて診断士のレベルアップを図り、地域中小企業を強力にバックアップしています。経営サポートのエキスパート集団である中小企業診断士を是非ご活用下さい。

◆観光産業化研究会

委員長 峠岡伸行・川嶋正己



北陸新幹線延伸、東京オリンピック開催などの機会が眼前に迫っています。インバウンド対策の立ち遅れなども指摘される中、福井県は、各市町はどのようにして観光を振興し、そ

れを産業として事業者の収益にまで落とし込むべきなのか、具体的なアクションを起こさなければならぬ時期となっています。観光産業化研究会では環境変化の調査を踏まえて、各市町に対する具体的な提案をまとめ、実践に向けた意見交換を行っていきたくと考えています。

当協会では約10年前から「観光」を大きなテーマとして捉え、調査研究を続けています。我々の提案も参照して観光産業化に具体的に踏み出した勝山市の例なども出ています。我々を観光産業化のシンクタンクとしてご活用いただければと思っています。各市町がすぐに実践に繋がられる個別具体的な提案を行なってまいります。

地方創生シンポジウム開催日決定！

本年度も「中小企業診断士の日」を記念し、地方創生シンポジウムを開催いたします。内容は決定次第お知らせいたしますので、参加ご予約いただきますようお願いいたします。

□日 程：平成30年11月9日（金）午後

□会 場：福井商工会議所ビル国際ホール

（福井市西木田2丁目8-1）

協会活動のご紹介

地方創生シンポジウムで チーム支援の事例を発表 ～南越前町空き家プロジェクト～

平成 29 年 11 月 10 日に開催した「地方創生」シンポジウムで、南越前町の観光活性化に関するチーム支援の発表を行いました。



本事業では、南越前町今庄地区で進められていた「今庄宿プロジェクト空き家活用事業」の中の「齋藤三郎家住宅運営計画策定支援」に取組み、4名の中小企業診断士チームで実施しました。

本事業の支援の中心は、齋藤家という歴史的建造物を再生し、飲食店として開店することで、今庄宿を訪れる観光客に地元の郷土料理を堪能してもらうとともに、滞在時間を長くして観光資源を満喫してもらうことを目的として行いました。

シンポジウムの発表には、南越前町観光まちづくり課より、関根様と治内様にもご登壇いただき、私達の支援に対する評価や開店を控えた飲食店のPRなど、忌憚のない発表をいただきました。

私達の行った提言に対してどのようなアクションを実行されるか、今後に期待できます。助言の中心は、飲食店のオペレーションに関するものや、集客に関するものが中心ではありましたが、今庄宿プロジェクトのコンセプトに関する助言や、広域的連携に関する助言、その他観光資源の活用に関する助言など幅広いものとなり、中小企業診断士が町づくりや観光活性化に対して助言できることをアピールするものとなったと思います。

発表の最後には、地方創生や観光振興に関する問題提起をしました。これは、地方創生や観光活性化の事業そのものが、ともすれば形骸化する傾向が強くと、真の成果につながっていない恐れに対して行ったものです。事業と位置付けるからには、到達目標（成功）は何なのか、そのために誰が何をどのように、いつまでに行うべきなのか、提起したものです。中小企業診断士ならば常識であると思われる、「経営戦略」に他なりません。こうした、シンポジウムを通して、中小企業診断士に対する理解を深めてもらう契機になったと感じています。

本年度も、事業企画委員会において、川嶋委員長を中心としてシンポジウムの企画・実施を行う予定ですが、中小企業診断士の活動実態を明確化し、外部に発信し知ってもらう目的にとどまらず、協会のネットワーク・連携をより深くしていくことにも実りあるものにしていきたいと思ひます。

会員の皆様には、日頃の活動をアピールするだけでなく、行政機関や支援機関、金融機関の方々と深いコミュニケーションを築く場としても位置付けていただきたいと思ひます。

支援スキルの向上に向けた研修会開催 ～ロジカルシンキング、IT 活用支援～

会員研修・視察委員会では中小企業診断士としての支援技能向上を目的に「スキルアップ研修会」を実施しており、平成 29 年度は 2 回開催しました。



第 1 回目は平成 29 年 12 月 8 日に東京都中小企業診断士協会中央支部所属の木村清香氏を講師に迎え「ロジカルシンキング」をテーマに開催しました。ロジカルシンキングとは難しいものを単純化、構造

化することにより、相手を納得させ相手と協調するための思考方法で、中小企業診断士においても企業への提案など筋道を立て論理的に説明する時などに強力なスキルとなるものです。

今回の研修会では企画、プレゼンなど様々なビジネスシーンで必要となる思考スキルについて論理的に実践できるよう、多くの演習を交えた内容でした。特にロジカルシンキングは一朝一夕では身につかないと言われており、日々のトレーニングが必要であることから、この演習を機にトレーニング法を学び、考え方を身に付けることを主眼としました。

参加者からは1時間半の研修時間がアツという間に過ぎた感じであり、内容の濃い研修だった等の感想が寄せられました。

また、第2回目は平成30年2月21日に実践IT研究所代表で中小企業診断士の村上知也氏を講師に「攻めと守りのIT活用支援」をテーマに開催しました。ご存じの通り、顧客ニーズの多様化やIoT時代の到来などでITは目覚ましい進歩を遂げており、ビジネスにおいてもIT活用は避けて通れないものになっています。

診断士においても、今後益々企業からのIT活用支援のニーズが高まることが予想されており、今回の研修会では、IT活用の2つの柱である「販売促進」と「効率化」の両面について基本的な考え方を学ぶ機会となりました。

2月の豪雪直後の開催にもかかわらず、多くの会員が参加し、関心の高さがうかがわれ、講師からは自身の経験や事例、また診断士としての支援方法のノウハウについても惜しげもなくご披露いただき大変参考となる研修会となりました。

海外研修でマレーシアの 福井県企業を訪問 ～ハラル対応と労務管理を学ぶ～

福井県中小企業診断士協会では、2月10日(土)～14日(水)の日程で、マレーシアとシンガポールに進出する福井県企業や日系企業を訪問する海外視察研修を福井県経営者協会と共催実施し、大学生

3名を含む15名が参加しました。アセアンの中で、シンガポール、ブルネイに続く経済発展をとげ、近年消費市場としても注目を集めているマレーシアでは、①ジェトロ・クアラルンプール事務所、②増永眼鏡マレーシア、③イオンモール・シャーアラム、④勤八トロイカ店を訪問し、現地法人の経営や現地特有の労務問題、日本食をはじめとした消費市場の現場情報の収集を行いました。



また、シンガポールでは長年にわたる店舗経営で確固たる地位を築いている高島屋を訪問し、シンガポールの消費市場について話を伺いました。

マレーシアに工場や事務所を持つ福井県企業の駐在員を囲んでの夕食懇談会も開催し、視察先企業に加え、(株)エイチアンドエフ、信越化学工業(株)の駐在員の方にもご参加いただき、企業経営だけでなく駐在員の生活などについても忌憚のない意見交換を行いました。

訪問先でのヒアリングの内容を整理すると、

①マレーシアは、人口3,250万人のうち30歳未満が53%、平均年齢28歳と人口構成が若く、消費市場の拡大も期待できる

②多民族国家で、マレー系が69%、中国系23%、インド系7%を占め、外国人労働者も250万人が働いている(不法滞在者も250万人と言われている)

③経済成長率は5～6%、一人当たりGDPは1万ドル程度と中進国レベルで、自動車保有台数も1,000軒当たり400台と、タイの280台を大きく上回る

④マハティール首相時代に、ルックイースト政策をとり、日本の経済発展を参考にして、外資導入、高速道路などのインフラ整備にいち早く取り組んだことが、経済発展を支えている

⑤年間可処分所得 35,000 ドル以上の富裕層の割合が人口の2割を占め、15,000 ドル以上のアッパーミドルを含めると6割に上る⑥日本の流通業やレストランの進出が増えてきているが、衣料品は厳しい状況が続いていて、飲食系では低価格帯メニューが若者に受けている

⑦一方で、LCCが日本まで飛ぶようになって本物の日本食を食べた経験のある人が増えてきて、日本食を食べる人も増えている

⑧食品では、ハラル認証を気にする人も多いが、認証の難易度が高いため、「ポークフリー」と打ちだす日本食店が多い（マレー人が食べに来ていると知ると、自分も大丈夫と思う人が多い）

⑨国営石油会社の配当の国家財政に占める割合が高く、原油価格の低迷が財政赤字につながっているし、各種補助金政策も足かせになっているのが大きな課題になっている

マレーシアの労務管理については、

①マレーシアでは小学校から英語教育をしているので、マレーシア全土の高校卒業者のほとんどは英語でコミュニケーションができる

②一方で、スーパーのレジや飲食店で働く人はマレー語しかできない人も多い

③経済成長率に合わせて毎年5%程度の賃上げを行っているが、マレー人の若者の定着率は低い（特に、製造業や飲食業では、応募者がいない）

④従業員の定着を高めるために、社員旅行や忘年会、家族を招いた運動会などコミュニケーションを深める取り組みを行っている

⑤技術向上に向け日本での研修も取り入れていて、将来は現地法人の運営を任せられるよう人材育成に取り組んでいる

人員確保の面では課題が出始めているものの消費市場として成長を遂げ、イスラム圏への入り口としても注目を集めているマレーシアの動きを、福井県の企業も注視していく必要があると感じました。

市場・企業活動がグローバル化していく中において、当協会では今後も引き続き、福井県企業の海外展開先や成長するマーケットの調査研究に取り組んでまいります。

新入会員紹介



be-smiling
佐々木 孝美

平成29年に資格登録し、今回入会させていただきました。

高校生までは大野市、その後は関西に住んでいます（現在、実家は坂井市）。

とはいえ、生まれ育った福井県には愛着がありますので、福井の活性化に寄与できればと思い入会しました。

資格取得のきっかけは、小規模企業の経営者側の立場になり、経営のことを勉強しなければと思ったからです。勉強するうちに中小企業の支援をしたいと思うようになり、経営者の立場を退任し現在はフリーランスとして活動をしています。

現在は講師業の比重が大きいです。今後はプロコンとして経営者に寄り添い、活性化に寄与して参ります。まだ少ない女性診断士としても、活躍の機会があればと思っております。



勝木中小企業診断士事務所
勝木 隆世志

平成29年度に資格登録し、入会させていただきました勝木隆世志です。

資格取得のきっかけは、40歳を過ぎた頃の初めて

の転勤で京都の子会社への出向でした。その後海外赴任で中断していましたが、兵庫県豊岡市への転勤後再度資格取得を目指し試験合格。郷里である福井に帰った後に診断士資格を登録しました。

福井は製造業が盛んな土地柄であります。自分自身の製造業での経験を活かしながら、人手不足で困っている企業に対し、少しでもお役に立てることができるよう努力していくことが役目だと認識しています。また、協会では、いろんな人がいろんな経験されていますので、学びながら特に製造業以外のスキルの幅を拡げていきたいと思っています。



**公益財団法人
ふくい産業支援センター
佐藤 悟**

平成 29 年に資格取得し、この度入会させていただきました、生まれも育ちも坂井市の佐藤です。

元々、IT・Web・映像制作等の業界向け支援を行っていましたが、40 歳のタイミングで経営相談・補助金関連の部署へ異動。そこで多くの県内企業さまと接する機会を得たことが取得のきっかけとなりました。

異動直後は、ほぼゼロベースでのスタートでしたが「挑戦に遅すぎることはない、失敗してもそれ自体に価値がある」と自分に言い聞かせ、日々を前向きに過ごすことで、資格取得につなげることができました。

今後も、県内企業さまの経営課題解決の一助となるよう、日々色々な知識を吸収・活用し、活動範囲を広げることで、自分自身の成長にもつなげていきたいと考えています。



**株式会社日本ビロ -IA
高木 陽**

平成 27 年に登録し、今回入会させていただいた高木です。出身は敦賀市で現在も敦賀市内に本社がある橋梁を主力とする建設業に勤務しています。42 歳です。資格を取得したきっかけは、社内で財務や営業企画の業務に携わってきた経験の中で、より全体的な視点で経営全般に関する知見を高めたいと考えたためです。

資格取得後は、社内で長期ビジョンや中期計画の策定など経営企画業務を担当してきましたが、自分自身の診断士としてのスキルの向上、そして地域の活性化や中小企業の連携の必要性を強く感じ、この度入会させていただきました。

企業内診断士としてとなりますが、様々な診断士の活動に積極的に参加させていただき、諸先輩方のお話等を通じて、多くのことを学んでいきたいと思っております。諸先輩方には何卒ご指導を賜りますようお願いいたします。

企業内診断士としてとなりますが、様々な診断士の活動に積極的に参加させていただき、諸先輩方のお話等を通じて、多くのことを学んでいきたいと思っております。諸先輩方には何卒ご指導を賜りますようお願いいたします。



**株式会社福井銀行
前田 泰利**

平成 28 年に資格取得し、入会しました。資格取得のきっかけは、目に見える強みを作りたいと思ったことがきっかけでした。

診断士としてのモットーは、お客様のニーズに的確に応え、事業価値・企業価値の向上に繋げ、社会に貢献していくことです。その為には、スキルを磨き続け、様々な経験を積むことが必要と考えております。当協会に入会し、諸先輩方、社外の方々や接することで、多くのことを学んでいくことで自身の知見を広め、お客様（中小企業）の役に立っていきたくです。



**公益財団法人
ふくい産業支援センター
友田 和幸**

平成 30 年 4 月に資格登録し、今回入会させていただきました友田和幸です。北陸電力に勤務しており、

現在は（公財）ふくい産業支援センターへ出向しております。（平成 30 年 6 月現在）。資格取得のきっかけは、4 年前にふくい産業支援センターに派遣された際、経営者の方々と対等に会話ができるようになりたいという想いからでした。そこから、学習し始め 3 年、昨年合格いたしました。診断士としてのスキルの維持、向上やネットワークを広げることを目的に当協会に入会させていただきました。

今後は、経験豊富な先輩方や様々なケースから多くを学び、福井県や北陸地域の中小企業経営者と一緒に考え応援し、地域が元気になれるように微力ながら貢献していきたいと思っております。



この「診断ふくい」編集は 30 代の若手診断士が務めました。例会での発表や、チーム支援にも、どんどん若手が登用されています。そのことから、純粋に「経営者の力になりたい」という熱い想いを持つ診断士には門戸が開かれていると強く感じました。